小児難治性腎疾患研究会

学術講演会

プログラム・抄録

会期 : 平成 29 年 5 月 26 日 (金) 午後 7 時 00 分~午後 9 時 00 分

会場 : ホテルモントレ仙台 5階 「アドリア」

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4-1-8

小児難治性腎疾患治療研究会 代表世話人 本田 雅敬 副代表世話人 石倉 健司 事務局 濱田 陸

会場ご案内

ホテルモントレ仙台 5階 「アドリア」

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4-1-8 TEL.022-265-7110

https://www.hotelmonterey.co.jp/sendai/
https://www.hotelmonterey.co.jp/sendai/access/



電車で

地下鉄利用の場合 地下鉄「仙台」駅 南2番出 口より徒歩1分 JR利用の場合

JR「仙台」駅 西口より徒歩 3分

空港から

仙台空港から 仙台空港アクセス線利用で JR「仙台」駅まで20分

プログラム

1. 開会のご挨拶

19:00~

公立福生病院 小児科

松山 健 先生

2. 事務局連絡

19:05~

国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科 石倉 健司先生

3. 小児ネフローゼ症候群の臨床研究 19:10~

座長 琉球大学大学院 医学研究科育成医学(小児科)講座 中西 浩一先生 ①ステロイド抵抗性小児ネフローゼ症候群を対象としたシクロスポリン+プレドニゾロン併用療法と コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム+シクロスポリン+プレドニゾロン併用療法の多施設共

同非盲検ランダム化比較試験 (JSKDC02)

演者 横浜市立大学 発生成育小児科医療学講座(小児科学) 伊藤 秀一先生

②小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査(JP-SHINE) 二次調査研究①

国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科 佐藤 舞 先生

③小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査(JP-SHINE) 二次調査研究②

演者 加古川中央市民病院 小児科

石森 真吾先生

④ネフローゼ症候群の社会的側面からの長期予後研究について

演者 東京都立小児総合医療センター 腎臓内科

寺野千香子先生

憩 (10分) 休

4. 特別講演

20:00~

座長 国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科 石倉 健司先生 難治腎は何を我々に与えてきたか?

演者 東京都立小児総合医療センター 院長

本田 雅敬牛牛

(共催 ノバルティスファーマ株式会社)

5. 閉会のご挨拶

20:55~

熊本大学医学部 小児科

仲里 仁史先生

難治腎は何を我々に与えてきたか?

東京都立小児総合医療センター 院長 本田雅敬

1998年に始まった小児難治性腎疾患治療研究会(難治腎)はその前身の小児ネフローゼ症候群治療研究会(1987年発足)から30年を迎える. 小児難治性ネフローゼ症候群治療研究会, 小児 SLE 治療研究会と3つの会が統合され発足した. 九州, 関西, 関東, 北海道の4地区会で始まり, 2002年に総会が加わり, 2007年には総会のみとなった.

難治腎の功績は前身の会と合わせて、1) 多施設臨床試験によるエビデンスの確立に道を開き、2) ネフローゼのステロイドの使用法を統一し、3) 開発されたばかりのシクロスポリンの標準治療を作成し 4) 結果的に現在の JSKDC につながる数々の業績を残してきた。もし 1) – 3) が無かったら 4) は継続できていなかった。また 2003 年には現在の臨床試験の方法論をいち早く取り入れられたが、これも元の基盤整備が有ったからである。さらに小児腎臓あるいは小児全体の臨床研究の未来に道を開く人材を育成してきた、2011年のサイクロフォスファミド、やソルメドロールの適応取得もその流れを組み、小児腎臓病学会として初めてのエビデンスに基づくネフローゼ症候群のガイドライン作成(2005年)にもつながっている。これらは現在の新たな適応取得のための臨床試験やガイドライン作成の基となった。

成功してきたか理由は最初に RCT を立ち上げた伊藤拓, 吉川徳茂両先生の努力と各地区会の幹事の先生 方の協力, 治療プロトコール遵守への会員の努力と柔軟性, 9 年間の地区会の維持から全国への発展, もち ろん良いプロトコールが準備できたことが挙げられる. しかし最大の功績は小児腎臓を維持する先生方の 卓越した仲間意識であろう.

略歴

[学職・職歴]

1976年 慶應義塾大学医学部卒 小児科学教室入室

1980 年より 東京都立清瀬小児病腎臓内科勤務

1990年より 同腎臓内科医長

1998年より 同腎臓内科及び小児科部長

2003年より 東京都立八王子小児病院副院長

2007年4月より 東京都立清瀬小児病院副院長

2010年3月より 東京都立小児総合医療センター副院長

2014年4月より 東京都立小児総合医療センター院長

[専門医]

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本小児科学会専門医・認定小児科指導医 [評議員他]

日本腎臓学会評議員、日本小児腎臓病学会理事長、日本小児薬理学会評議員、日本腹膜透析学会評議員、

日本小児腎不全学会評議員、日本小児 PD・HD 研究会会長、小児難治性腎疾患治療研究会代表世話人、

日本慢性腎臓病対策協議会副理事長

[Award]

13th Annual Conference on Peritoneal Dialysis (San Diego, 1992) The best pediatric abstract award

